



時事評論家 増田俊男

頭の切り替え時

私が読者の皆様に「頭を切り替えましょう」と言い始めて久しい。

世界の政治、経済、文化にも 20 世紀では考えられなかったことが普通になった。

人は昔と今の違いは分かるが何故か分からないとそのまま当たり前のこととして身につけ、言わば常識になってしまう。

だから今日常識になっていることの理由を聞かれると、「それはそういうことになっているのだからそれでいいのだ」と言って理由を追求しない。

経済成長期には常識の理由が分からなくても「結果オーライ」となるので問題は無かった。

しかし今日のように経済低成長・ゼロ成長期になると常識に従っていると「結果オーライ」にならない。

だから「何故」が大事になるのである。

《「何故」本年 9 月後半に暴落が起きるのか》

私は昨年から今年の「9 月後半に NY 発の株価暴落がある」と言い続けてきた。

今年 9 月の暴落の唯一の理由は FRB による QE3（第三次量的金融緩和）の年内縮小と来年の出口（停止）の決定である。

2008 年のリーマンショック以来 NY 株価が 100%以上上昇した唯一の理由は 5 年半に渡る FRB の 350 兆円規模の金融緩和である。

金融緩和が緩和期間の 5 年半の間に実体経済の成長（GDP）にどれだけ寄与したかを見ると平均成長率は 1.7%だが平均インフレ率が 1.7%だから実質成長ゼロになり実体経済には何の貢献もしていないことが分かる。

その上財政赤字が約 200 兆円増えたのだから国家財政に貢献どころか悪化させている。

株価が上がり金融資産が膨張した結果、1%の富裕層が市場を通して緩和資金を懐にし、99%の国民は家を失い、地方都市は財政破綻、これが FRB 大金融緩和政策の結論になろうとしている。

アメリカの国益を全うしようとする FRB としては、時期はいつであれ緩和政策を止めることを決めた以上、このままの結果で終えるわけにはいかない

だから今アメリカは緩和政策を止めても自律成長出来るのだと経済のファンダメンタルズの良さを誇張して NY 市場に世界の資金を集中させているのである。

それが来るべき暴落を計算に入れてのことであることは何度も解説した通り。

「NY 市場に集められた世界の資金が暴落で損をした分がアメリカの儲けである」という市場原理についても何度も説明してきた。

これから起きる NY 市場の暴落があつてこそ FRB は 5 年半の金融緩和の結果としてアメリカ合衆国に貢献することになるのである。

、これが本年の暴落の「意義」である。

来年 9 月の暴落はアメリカ一国の為では無く世界の存否に関わる人類が初めて経験する世界革命的暴落である。

資本の原理と応用においてアメリカより歴史の古い欧州は既に備えを固めようとしている。

「増田俊男の特別レポート」で解説する。

「時事直言・サポーター」の皆様へ増田俊男からのお願い

「時事直言」のご愛読、心から感謝致します。

皆様のご支援のおかげで日本人として誇りを持って世界の「大物」の方々と「対等」に交流することが出来ます。

私の強みは、アメリカを知り、ヨーロッパを知り、日本（アジア）を知っていることです。
この三つの目で世界を見つめ続けています。

今や再びアメリカを震源地とした経済異変のマグマが平穏に見える地表を破り世界を火の海にしようとしています。

2014 年 9 月の超大暴落は単にアメリカの為ではない！

今までの常識が通用しなくなった市場にどう対処するか。

世界経済の異変を逆手に取る秘策とは何か。

「一歩先」の道導（みちしるべ）を伝授します。

長きにわたる欧州の旅の総決算が本特別レポートです。

旅の間何時も皆様への感謝の気持ちを持ち続けています。

増田俊男

※お名前、ご住所等は**明確**にご記入ください。

不明確な場合は「特別レポート」を送付出来ない場合がございます。

＜「時事直言」協力金申込み＞

サポーター記入欄

お名前

ご住所 〒

TEL FAX

申込み口数 【1 口 ￥3,000-（複数口歓迎）】

＜協力金振込先＞

三菱東京 UFJ 銀行 池袋西口支店 普通 3964107 カ)マスダトシオジムショ

「特別レポート」の発送は 2013 年 9 月下旬～10 月上旬を予定しています。

FAX 送信先:03-3955-6466

株式会社増田俊男事務所
info@chokugen.com